Japan Patent Office Patent Laying-Open Gazette

Patent Laying-Open No.

60-242532

Date of Laying-Open:

December 2, 1985

International Class:

G11B 7/24

(4 pages in all)

Title of the Invention:

INFORMATION RECORDING CARRIER

Patent Appln. No.

60-010857

Filing Date:

January 26, 1981

Inventors:

Toshio Sugiyama

Kazuo Shigematsu

Applicant:

Hitachi Ltd.

(transliterated, therefore the spelling might be incorrect)

4 Japanese Patent Laying-Open No. 60-242532

[Abstract]
[Object]

Utilizing the fact that reflected light changes differently on a photo detector dependent on whether the pit depth is deeper than 1/4 wavelength or not, recording density is improved.

[Structure]

When the pit depth is shallower than $\lambda/4$, an output b of a subtractor 8·2 changes from + to - with the center of a pit being the border, when the depth is $\lambda/4$, the output b does not change, and when the depth is deeper, the output changes from - to +, with the center of a pit being the border. An output a of an adder 8·1 has a peak with maximum modulation when the pit depth is $(2n+1) \lambda/4$, while the output b of adder 8·2 has peaks at $(4n+1) \lambda/8$ and $(4n+3) \lambda/8$, with mutually different signs. Therefore, a threshold value is provided for the output a to detect whether there is a pit or not, and a comparator is provided for the output b to detect whether the output changes or not at the center of the pit and to know the direction of change, whereby information of four values can be obtained.

[Scope of Claim for Patent]

1. An information recording medium from which information is optically read by an optical beam, where said optical beam has a wavelength of λ , said recording medium having: a first information pit having the pit depth (represented in optical distance) of 0; a second information pit having the pit depth of approximately $(2n+1) \lambda/4$ (n is an integer); a third information pit shallower by at most $\lambda/4$ in optical distance than the depth of said second information pit; and a fourth information pit deeper by at most $\lambda/4$ in optical distance than the depth of said second information pit; wherein four different pieces of information are held in accordance with the pit depth.

[Embodiments of the Invention]

As shown in Fig. 2(c), when the pit depth is slightly shallower than $\lambda/4$, the output b of subtractor 8-2 (shown in Fig. 2(b)) changes from + to -, for example, with the center of the pit being the border. When the pit depth is approximately $\lambda/4$ as shown in Fig. 2(f), the output hardly changes (as shown in Fig. 2(e)). Further, when the pit is slightly deeper than $\lambda/4$ as shown in Fig. 2(i), the output changes in the direction from – to + with the center of the pit being the border (as shown in Fig. 2(h)), contrary to the example of Fig. 2(c). This is because the distribution of light reflected from the pit changes in accordance with the shape of the pit on the photo detector. The change in detail is as shown in Figs. 3A and 3B. In these figures, the ordinate represents outputs

a and b, and the abscissa represents the phase depth of the pit. The output a of adder 8-1 has a peak when the pit depth is $(2n+1) \lambda/4$, at which the degree of modulation is the highest. Therefore, it is well known that for reading in normal phase, a signal of large magnitude can be read with best S/N when the pit depth is set to $\lambda/4$. As for the change in output b of subtractor 8.2, it has peaks at $(4n+1) \lambda/8$ and $(4n+3) \lambda/8$ with mutually different signs, as shown in the figure. Therefore, when a threshold value is provided for the output a, it becomes possible to detect whether there is a pit or not, and when a comparator is provided for the output b to know the presence/absence of any change at the center of the pit and to know the direction of change, it becomes possible to obtain four different pieces of information. An example is shown in the form of a table in Fig. 4. As can be seen from the table, when the pit width is changed to 0 (no pit), $\lambda/4$ - α , $\lambda/4$ and $\lambda/4+\alpha$, the outputs (a) and (b) are obtained as "0" or "1". Therefore, from the outputs (a) and (b), four-valued outputs (c) of 0, 1, 2 and 3 can be determined. In principle, the value α may be any value in the range of $0 < \alpha < \lambda/4$. Practical value is about $\lambda/10$ to about $\lambda/1$ several tens. The present invention may be implemented in a discrete manner or in analogue manner. Though reflection detection of the output has been described, transmission detection is also possible and, in that case, each pit depth should be doubled. In order to form an information recording medium that provides four valued outputs, the information recording surface of the medium must be divided into four areas having different depth for recording. Specifically, the first information pit having the depth of 0, the second information pit having the depth of $\lambda/4$, the third information pit having the depth of $\lambda/4-\alpha$ and the fourth information pit having the depth of $\lambda/4+\alpha$ are provided. For recording, the thickness of a photo resist may be set thicker than $\lambda/4+\alpha$, and dependent on the four-value area, the amount of light for recording may be changed. Alternatively, a film having relatively higher light absorption than a recording photo sensitive material (photo resist or the like) may be provided at the pit depth of $\lambda/4$ - α , $\lambda/4$, and $\lambda/4$ + α , the depth attained by the recording light amount and the exposure can be made stepwise. This facilitates control of recording light amount.

⑩日本国特許庁(JP)

10 特許出願公開

母 公 開 特 許 公 報 (A)

昭60-242532

@Int Cl.1

識別記号

·庁内整理番号

❷公開 昭和60年(1985)12月2日

G 11 B 7/24

B-8421-5D

審査請求 有 発明の数 1 (全4頁)

9発明の名称 情報記録担体

②特 顧 昭60-10857

❷出 闡 昭56(1981)1月26日

前実用新案出顧日援用

79発明者 杉山

安 安

豊川市白鳥野口町9番地の5 株式会社日立製作所豊川工

場内

砂発明者 重

和男

国分寺市東応ヶ窪1丁目280番地 株式会社日立製作所中

央研究所内

砂出 膜 人

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台4丁目6香地

129代 建二人

弁理士 小川 勝男

外1名

明 権 書 発明の名称 情報記録:

酵求の集団

1. 情報を光ビームによって光学的に読み取る情報記録担体において、上記光ビームの液長をよったし、ピット訳さ(光学的距離で表わす)、であり、であり、では、大きの第1の情報用ピットと、は整数)の第2の情報用ピットを、上記第2の情報用ピットの最きだけでは、大きの情報用ピットの最もに応じて4種類の光学的距離でえど4以内の長さだけ深い第3の情報と対象のでは、大きの情報を有きることを特徴とする情報を有することを特徴とする情報を有することを特徴とする情報を有することを特徴とする情報を有することを特徴とする情報を有することを特徴とする情報を表することを特徴とする情報を表

発明の詳細な説明

〔発明の利用分野〕

本発明は、光学的に情報を記録する情報記録担 体及びそれから光ビームにより情報を読み取る該 質に関するものである。

[発明の背景]

レーザーを光振とし、その光スポットを情報担 体の情報面に結像させ、その変異された光を光検 出器により電気信号に変換する情報処理装置が知 られている。即ち、情報記録用の媒体にピットと 呼ばれる凸凹をトラック状に設けこのピットによ り反射してくる光量の変化で情報を再生していた。 通常光スポット径は≈1.5μmトラックピッチ ε 1 . 5 μm、是少ピット長は釣再生スポットの 1/2程度が現在のおおよその展界である。この ピットの長さとそのくり返し周期を情報として 変 解し、復興し情報の処理を行っているが、ピット とそうでない領域と2つの領域に分けたいわゆる 2値化の処理といえる。その従来の装置の策略構 成を第1回に示す。情報担体1にはピット2と一 般に呼ばれる凹凸が設けられている。レーザ等の 光源3の光ビームをカップリングレンズ4で変換 し、ハーフミラー5を造し絞り込みレンズ6によ り記録担体1の情報面に投射する。 そのピット 2 により変闘された反射光はハーフミラー5より光 路を変えられ、光検出器でにより電気信号に変換

特開昭60-242532(2)

され情報が読みとられる。ここでは光検出器をそ の光スポットの走査方向に 2 分割し、その各々の 出力を加算器8~1と差分器8~2に供給し、そ の出力 a , b 、を出力増子9-1及び9-2から 取り出す。いま、ピットの蒙さを変えた場合にお いてピット上を走弦した場合を第2回に示す。第 2 関に於て、加算器 9 - 1 の出力信号 a の出力、 差分器 9 - 2 の出力信号 b を縦軸に、光スポット のトラック方向の変位を横軸に示す。ピットの探 さ(ピットが形成されたディスク表面を基準とし てピットの最深面までの物理的距離を光が通過す るときの光学的距離で以下ピットの凝さを表わす ものとする。)が、その読み出す光の波長んのん / 4 - α (第 2 図(c)に示す) 。 λ / 4 (第 2 図) (f)に示す)、 λ / 4 + α (第 2 図(i)に示す)の 場合について見ると、出力αはピットのあるとこ ろで光が回折により絞り込みレンズの開口より外 .に拡散するために第2図(a), (d)及び(g)に示す 如く反射光量が減少し出力が低下していることを 示している。従来はこの出力被形を利用し記録担

体上に配置されたピットを時系列的に腕み出し、 そのピットの光スポットの走査方向の長さや、そ のくり返し周波数を情報として用いていた。すな わちピットにより時系列的に光検出器の出力が変 化するといういわば2値化的情報であった。

(発明の目的)

本発明は、従来の情報記録担体に比べてはるかに記録密度を高めた情報記録担体を提供することにある。

(発明の概要)

本発明は、上記目的を達成するために、ピットを走査するときに、そのピットの深さが光の故長 2 の1 / 4 を境にして、光被出器上で反射光の分布の変化が異なることをも利用し、高密度再生を 行うことを特徴とするものである。

「発明の実施例)

第2図(c)に示す如くピットの深さが 2 / 4 よりわずかに浅いときは差分番8 - 2 の出力 b (第2図(b)に示す)はピットの中心を境いにたとえば⊕から⊖へと変化する。また第2図(f)に示す

如くピット深さが1/4付近の場合はほとんど変 化しない (第2回(e)に示す)。 さらに第2回(i) に示す如く、ピットが೩/4よりわずかに深い場 合は第2回(c)の場合とは逆にピットの中心を境 に⊖から⊕方向へと変化する(第2箇(h)に示す)。 これは光検出器上でのピットからの反射光の分布 がピットの形状により変化するためで、これをさ らに詳しく調べると第3図A及び第3図Bに示す ような変化となる。阿閦において軽軸は各々の出 カa,bを示し、機軸には、ピットの位相深さを 目盛ってある。加算器8-1の出力 a は、ピット の深さが(2n+1) 2/4の時にピークを持ち 変調度が最も大きくとれる。よって通常位相型で 読み出す場合はピットの綴さを2/4に設定する と一番S/Nもよく信号が大きくとれることは一 般に知られている。次に差分器8-2の出力もの 変化をとると、図に示すように、(4n+l)~ /8と(4 n + 3) 1/8でピークを持ち、それ ぞれ符号が異なる。よって、出力aにあるしきい 彼を設けてピットの有無を検出できると共に、 出

カトにコンパレータを設けピットの中心での出力 信号の変化の有無と方向を知ることにより、 4 値 化の情報を得ることができる。この何の一例を第 4 図の表に示す。この表に示す如く、ピットの深 さを0(ピットなしの場合)、2/4-α,2/ 4 及び λ / 4 + α と変化させたとき、上記出力(a) 及び(b)はそれぞれ "O" あるいは "I" として 得られる。この結果、その出力(a)及び(b)から、 4 値化の出力(c)が、例えば 0 , 1 , 2 及び 3 と 定めることができるのである。なお、αの量は、 0 <α <λ / 4 の範囲であれば原理的に可能であ るが、その値は1/10~1/数10ぐらいが実 用的である。本発明は、離散的に行うことはもち ろん可能であるが、アナログ的に行ってもよい。 また出力を反射型で検出する場合を示したが、こ れを透過型で行う場合はそれぞれピット深さを倍 にすることにより実現できる。かくの如き、4値 化の出力を得る情報記録担体を作成する場合、そ の媒体の情報記録面を4つの深さが異なる領域に 分けて記録する必要がある。つまりピットの深さ

特閒昭60-242532(3)

り装置を示す図、第2回(a)~(i)はその動作を説 明するための図、第3図(A)及び(B)は、本発明 に係る情報記録媒体からの出力変化を示す図、第 4 図は、本発明に係る4 値化の出力の状態を説明 する表である。

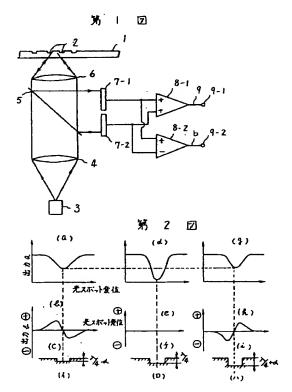
が0の第1の情報用ピットとよ/4の第2の情報 用ピットと、 λ / 4 - α の 第 3 の情報用ピット、 1/4+αの第4の情報用ピットの4つである。 これを記録する場合はたとえばホトレジストの厚 さを λ / 4 + α の厚さ以上にしておき、その 4 値 の領域により、記録するときの光量を変えること により可能である。また、さらに、ピット禁さが $\lambda/4-\alpha$, $\lambda/4$, $\lambda/4+\alpha$ の所に記録感光 剤(ホトレジスト等)より多少光吸収率が高い膜 を設けることにより、記録光量と露光による探さ を習及状にできる。この場合は、記録光量のコン トロールが容易になる。

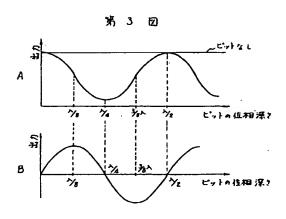
(発明の効果)

本発明によれば、従来の情報記録担体に比較し て記録密度をはかるに向上させることができる。 たとえば10ピットを使用した場合2値化で扱わ せる情報量は 2 20 個であるが 4 値化の場合は 4 20 個であり、記録密度は格段に向上するのである。

図面の簡単な説明

第1回は、本発明を説明するための情報読み取





 \square

出力深サ	o	74-0	7/4	<u>}</u> +4
(a)	o	,	/	/
(b)	0	+ /	0	-/
(c)	o	, .	· 2	3

特爾昭60-242532(4)

手·被 補 正 書 (方式)

昭和 6 0年 6 月 2 1日

補正の内容

1. 本顧明編書第8頁第5行の「表」を『図表』 に補正する。

特 华 产 長 官 助

事件の表示

昭和 60 年 特 許 順 第 10857 号

発明の名称 情 報 記 縁 担 体

補正をする者

事件との関係 特許出順人

名称(510) 株式会社 日 立 製 作 所

代 理 人

居 所〒100 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

株式会社 日 立 類 作 所 内

電 話 東 京 212-1111(大代表)

氏名(6850)

弁理士 小川 跡

福正命令の日付 昭和60年5月28日

補 正 の符 講片 明報書の図面の簡単な説明の概。